

# 人権作文から平和を考える

市立学校では、戦争の悲惨さや平和の尊さ、命の大切さについて学習しています。今回は、入江真依さん（作文作成当時は、筑南中学校三年生）の人権作文を紹介します。

## 「平和のありがたさ」

みなさんは、戦争についてどう思いますか。私は、もちろん戦争はとも恐ろしく、あつてはいけないものだと思います。平和学習のときは戦争や戦争の恐ろしさを学びます。その当時の事をくわしく学習して、とても今の暮らしがありがたいと感じます。学校に行き勉強をして、友達と楽しく話していることがどんなにすごいことなのだろうなと思います。



▲修学旅行の平和学習で広島平和記念公園「原爆の子の像」を訪れた筑南中学校の生徒たち

私は、前に戦争についてのテレビを見ました。そのときに、戦争中はお米や砂糖が配給されていたことを知りました。決まった量だけしかもらえず、おなかいっぱい食べることもできないのは、つらいだろうなと思いました。今は、食べたい物を食べたい時に好きな分だけ食べることができるので、ありがた

いと思うし、幸せだなと感じます。戦争中は、いつ空襲が来るかわからないので怖いなと思います。夜、寝ている時や、食事をしているとき、どんな事をしている時に空襲が来るかわからないし、すぐに対応したりするのは、大変だろうと思います。子供も、学校では訓練をしていたと知ったときはびっくりしました。私は、学校で勉強ができていることに、感謝したいなと思いました。

修学旅行で広島に行ったときは、改めて戦争の恐ろしさや平和について考えることができました。被爆者の梶本さんのお話を聞いたときは、驚いたことがたくさんありました。まず、今の私と変わらないく

らいの年で被爆されたことにびっくりしました。工場で働かされていたことにもびっくりしました。私は学校に行っていることが「普通」だけど、その当時は、学校に行くどころか、子供も働いていたと知って、私はとてもありがたいんだなと感じました。爆弾が爆発したときのお話を聞くと、すごい威力だったことがとても伝わってきました。お話を聞いているだけでも、そのときのことを想像すると、とても怖くなります。亡くなった方がたくさん転がっていたり、生きている人も全身やけどだらけで、体の皮膚や肉が腕からぶらさがっている人もいたと聞いて、びっくりしました。今の生活からは、信じられないようなことが実際に起こっていたのだと思うと本当に恐ろしく感じました。原爆資料館では、実際の資料を見て、より生々しさを感しました。焼けてボロボロになった服や爆発の起こった時刻で止まった時計などいろいろな資料を見ました。けがをした方たちの写真などもたくさんあり、どの写真もつらくて、苦しそうな表情をしているものばかりでした。当時のことがとても強く伝わってきて、私も苦しい気持ちになりました。原

子爆弾は、人々を不幸にする、怖くて恐ろしいものだと思っていました。

今、日本は、戦争や紛争が起こっていないかと感じます。でも、まだ世界では争いが起こったり、ミサイルの発射や核実験を行っているというニュースを見ます。人間どうしが武器を持って戦っても、何にも関係のない人が巻き込まれたり、大切な命が奪われるだけだと思います。

私たちは、住むところもあつて食べ物もあり、毎日何かに怯え、怖い思いをしながら生活することもあります。つまらない事やささいなことでも友達と笑い合っていることも平和だなと思います。当たり前だと思っている普通の生活は、本当に幸せなものだと感じます。戦争は、昔のことだと思わず、平和な世界になるためにも、自分が戦争について学んだことや知った事を忘れないようにし、語り継いでいくことが大切だと思います。

平和学習や修学旅行先の広島で、戦争の恐ろしさや平和のありがたさを学んだ入江さん。

戦争の悲劇を二度と繰り返さないためにも、入江さんが感じたように、命や平和の尊さに感謝して、戦争の悲惨さや愚かさを後世に伝え、平和な未来へとつなげていきたいですね。